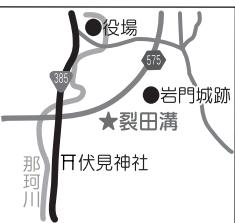


なかかわ

那珂川町郷土史研究会



横枕堰周辺

裂田溝23

じる子どもたちのにぎやかな笑い声が響いていました。向い側には町教育委員会が設置した「裂田溝」の標識が立っています。側面に古文書にも記述されています。このような歴史を持つ溝の中では、所在地が分かる唯一のものといえます」と記されています。

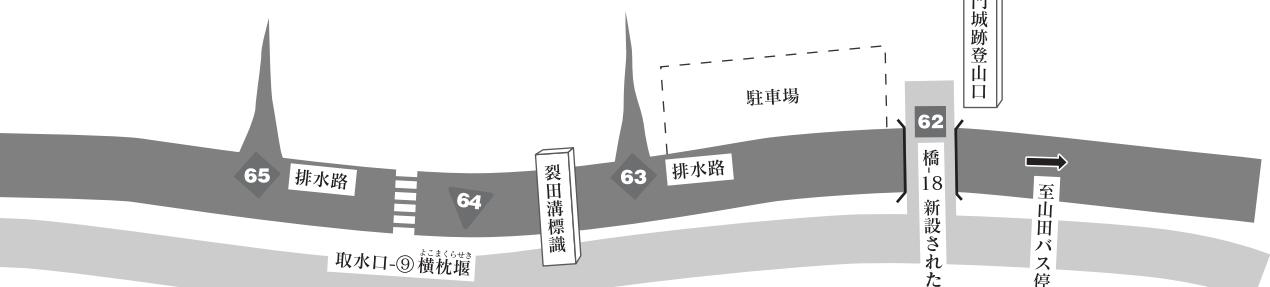
広報なかがわ1月号で「心やすらぐ日本の風景疎水百選」が発刊され、裂田溝が大きく紹介されていることをお知らせしました。ほかにも季刊誌『邪馬台国』1月号の中で、裂田溝と伏見神社が詳しく記されています。先人が残した第一級の文化財を持つ那珂川町が、このように全国的に紹介されることを誇らしく思っています。今後の現地探訪につながることを願っています。

裂田溝に架かる「橋18」は、今回の事業で新設された橋です。すぐそばに駐車場と、水辺に降りられるよう6段の石段が設けられました。この辺りでは、厳しい暑さが続いた昨年の夏、釣りをする人や泳ぎに興

ります。橋18の100m下流に、5本の石柱が立つ「取水口-⑨横枕堰」があります。ここでせき止められた水は、1.5m上流にある道路の下を横切る直径20cmの土管を通り、北側の雄姿が、間近に見えるところです。城山は標高195.5m、勾配の厳しい山ですが、年々登る人が多くなりました。あるとき「転勤が決まり、那珂川町とのお別れに岩門城に登りました。そこで生まれた4歳の息子は、ひとりで登ったことを自慢しています。いずれ福岡に戻りますが、また那珂川町に帰ってきます。家族の良い思い出になりました」と、登山者からうれしい言葉をいたいたこともありました。登山口がある西側(寺山田側)の中腹に、高津神社があります。神社一帯は巨石が多く、岩門合戦の時代には砦があつた所だと言われています。麓から神社までは200段余りの石段が続きま

はつまさい
高津神社の初午祭のにぎわい

新しく設置された駐車場と子どもたちお気に入りの水辺

よこまくらせき
取水口-⑨横枕堰

裂田溝の標識と裂田水路の整備を推進する会の役員さん

すが、歩幅も程よく取り付けられてるので登りやすく、世話をされる人たちの優しさがうれしく感じられます。高津神社は寿永年間、原田種直が怡土の高祖神社を勧請したものと言われ、別名「高津稻荷大明神」とも呼ばれています。2月と7月にはここで祭りが行われ、2月の初午の日に振る舞われる「かしわご飯のおにぎり」と「ぜんざい」のおいしさは、参拝者の楽しみの一つです。祭りの前日には地元の人の家でもちつきがあり、当時は80代、90代の高齢のおばあさんが這うようにして長い石段を上つて来られ、社務所にある今では珍しくなった囲炉裏でもちを焼き、ぜんざいを入れて振る舞われます。地元の人たちの暖かい接待に、寒さも忘れてします。

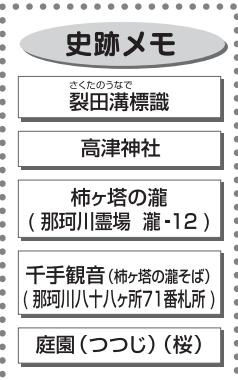
城山の南側の麓に柿ヶ塔と言われる場所があり、那珂川八十八ヶ所12番靈場「柿ヶ塔の滝」があります。そばには那珂川八十八ヶ所71番札

所「千手觀音」が祭られています。西側の麓にはツツジ園があり、ゴーリデン・ウイークのころが見ごろとなります。ツツジ園の前にある平田池の水は裂田溝の南側にある田んぼを潤して、落水は裂田溝へと流れ込みます。平田池の北側、こんもりと高い所に桜畠があります。まだ周囲の山々が冬景色のままの早春、城山の一角だけはピンク色に彩られ、一足早く春の到来を教えてくれます。これまでにつきりとした花の名前が分かりませんでしたが、ルーツを探ると安徳の花樹農家の指導で宮崎県から切花用として植樹した「御代桜」だと分かりました。今では近くの人が下草刈りなどをして、大切に育ててあります。2月末ごろから楽しむことができます。

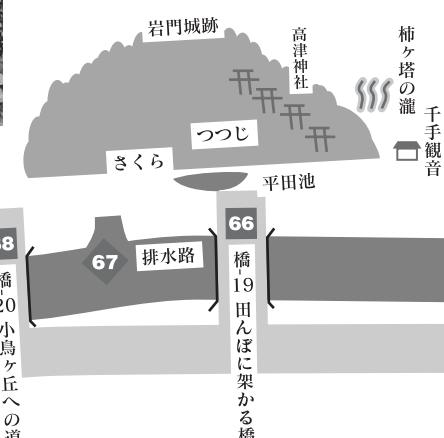
次号は、伝七橋周辺を紹介します。

満々と一里の流れ裂田溝
城山に照る朝日を拝す
輝雄

初午祭 2月12日(火)
午前10時から午後4時まで



那珂川八十八ヶ所12番靈場「柿ヶ塔の滝」

昔なつかしい囲炉裏で、
こんがり焼いたもちのなんとおいしいこと

城山(岩門城跡)西側の麓に咲くツツジ



城山(岩門城跡)西側の麓を彩る初御代桜